

「（仮称）子供・若者体験活動施設事業構想（案）」に対する意見募集の結果について

意見募集の概要

(1) 募集期間
令和6年10月24日（木曜日）から令和6年11月22日（金曜日）まで

(2) 提出方法
WEBフォーム又は郵送

(3) 意見の総数
合計 15件

(4) 内訳

【回答者属性】

属性	件数
小学生	0
中学生	1
高校生	0
大学生/大学院生/短期 大学生/専門学校生	1
保護者	5
学校関係者	2
NPO関係者	2
その他	4

【項目ごとの件数】

項目	件数
1.検討の背景（2～3ページ）	0
2.ユース・プラザ事業の現状と課題（3～11ページ）	1
3.外部環境の変化（12～13ページ）	2
4.（仮称）子供・若者体験活動施設事業について （13～17ページ）	8
全体に係る事項	5

(注) 複数項目について意見を回答している場合があるため、総数（15件）とは一致しません。

主な意見について

主な意見要旨と東京都教育委員会の考え方は以下のとおりです。

	意見者	主な意見要旨	東京都教育委員会の考え方
「2.ユース・プラザ事業の現状と課題（3～11ページ）」について	その他	「（1）事業の現状 ア 事業目的及び機能」では、障害の有無にかかわらず全ての青少年の自立と社会性の発達を支援する場を事業目的とし、それを果たすための機能を持たせることを明記すべきではないか。 障害の社会モデルを皆が理解し、共生社会の構築が目指されることに、この事業も同調することが大切である。	当該項目は、平成16年より実施しているユース・プラザ事業において、事業目的及び機能として掲げてきた内容を記載しています。ユース・プラザ事業では対象を限定することなく、すべての青少年を対象として事業を実施しております。
「3.外部環境の変化（12～13ページ）」について	保護者（中学生）	世帯年収が低いゆえ、体験が乏しい子どもが増えているとの報道もあるので、そちらの子どものフォローもこの施設できそうだと思う。	ご意見として承り、今後の検討の参考とさせていただきます。 具体的な事業内容については、基本計画において検討を進めてまいります。 なお、事業構想（案）p13のとおり、体験活動は子供・若者の成長にとって重要な役割があり、「様々な困難を有する子供・若者に寄り添い、誰一人取り残すことなくその可能性を大切に育むためには、誰もが参加できる体験活動の機会や場を、新たに創出していくことが必要である」と考えています。
	その他	ユース・プラザの宿泊事業を活用し、発達障害の疑いのある児童・生徒を対象とした取組みもできるのではないか。	
「4.（仮称）子供・若者体験活動施設事業について（13～17ページ）」について	中学生	農業や林業など一次産業について、体験しながら学べる機会が欲しい。農薬や肥料について、なぜ使うのか、必要性や是非について、思考を深められる機会が欲しい。	ご意見として承り、今後の検討の参考とさせていただきます。 具体的な事業内容については、基本計画において検討を進めてまいります。
	保護者（小学生）	暑い時期が多くなり、夏休みという体験をするにはちょうどいい時期が外に出づらい状況なので屋内施設や避暑地でのイベントを増やしてほしい。	
	保護者（小学生）	わが子は知的障がいを伴わない発達障がいがあり、他の子たちと寝食を共にして交流できる機会があれば素晴らしいと思うが、集団行動が苦手なため、現実には難しい。定型発達児向けの施設になるのではないか。	
	保護者（小学生）	自然に触れられる体験を増やして欲しい。特に、自然に触れながらSDGsなど環境の学びについて深められる機会が欲しい。	

項目	意見者	主な意見要旨	東京都教育委員会の考え方
「4. (仮称) 子供・若者体験活動施設事業について (13～17ページ)」について	保護者 (高校生)	何を持って自立と言うのか。社会で生きていけるかどうか。そしてその先に、「家庭を持ち、子を育てる」という考えも持つようにしていくべき。他のスポーツ施設との違いを作る意味でも、ここでしか出来ない体験ができるようにしてほしい。	ご意見として承り、今後の検討の参考とさせていただきます。 なお、自立の意味や捉え方については、事業構想(案) p14の「4. (仮称) 子供・若者体験活動施設事業について (1) コンセプト」において記載しております。
	学校関係者	東京都内に1ヶ所ではなく、区や市の中の中学校区単位で設置することが望ましいと思う。不登校生徒の居場所など学校では担えない役割や、地域住民(子育て保護者や高齢者)のコミュニケーションの場として活用が進むとよい。	ご意見として承り、今後の検討の参考とさせていただきます。 なお、区や市の教育委員会に属する社会教育施設については、法令上市区町村教育委員会の事務とされておりますが、本施設はユース・プラザと同様、都内2ヶ所で運営していく予定です。 施設の具体的な諸室については、基本計画において検討を進めてまいります。
	NPO関係者	プログラムの中に、高齢者活用の視点を取り入れてほしいと思う。世代を分断するのではなく、交流を通じて新たな化学反応を生むことが期待できる。子供・若者の体験には、「若い人しかいない」という施設ではなく、あらゆる世代が一緒になって子供と若者を支援できる施設を目指してほしい。	ご意見として承り、今後の検討の参考とさせていただきます。 なお、事業構想(案) p15に記載のとおり、本事業においては、NPO・団体・ボランティア等との連携・活用を想定しており、具体的な事業は、基本計画において検討を進めてまいります。
	その他	若者支援の上段の分析は間違えてはいないが、それを新規の大規模な箱物行政に変更と直結する対応がおかしい。	ご意見として承ります。 基本計画において、事業内容の具現化に向けて必要となる施設・設備の機能を検討してまいります。
「全体に係る事項」について	大学生/大学院生/短期大学生/専門学校生	子ども時代に体を自由にかつ十分に動かすことは、心の成長に役立つとされているが、現代社会では、子どもが思いっきり動ける(=遊べる)場所がなくなっている。今回の施策は、この問題に対する一つの解となり得ると思うので、期待できる。また、学校に適應できない児童生徒の新しい居場所としての機能を持つ事ができると考える。 検討委員会のメンバーが、一定の属性に偏ることなく、子ども達に本当に求められる場が造られることを切に願う。	ご意見として承ります。 基本計画検討委員会については、関係する様々な分野の有識者や団体代表等で構成することとしています。

項目	意見者	主な意見要旨	東京都教育委員会の考え方
「全体に係る事項」について	学校関係者	昔の青少年自然の家のような、体験型施設が東京都にあるべきだと感じている。 区部からでも簡単にアクセスできるように送迎バスがあるなどの子供ファーストの工夫が必要だと思う。	ご意見として承り、今後の検討の参考とさせていただきます。 具体的な事業内容や事業手法については、基本計画などにおいて検討を進めてまいります。
	NPO関係者	多様な企業、ビジネス、プロジェクトをコーディネートできる組織、機関などにプログラムを委託し、企業、地域社会、教育機関などが一体となって学び合える場が必要。実社会と強く結びついた体験を提供することが、ウェルビーイングな社会、企業、学校、人生の形成に結びつくものとする。 ハードが老朽化して、メンテナンスコストもかかるので、大掛かりなことができない状況であれば、思い切ったソフトの導入は必須。	
	その他	バリアフリー改修にあたっては、計画の最初から障害当事者を参画させてほしいです。身体障害のみならず、さまざまな障害の当事者が加わることが出来るようにお願いいたします。	事業内容や施設等については、多様な子供・若者に関わるNPO・団体等、特別支援学校、有識者等からの意見を踏まえ、基本計画において検討を進めてまいります。
	その他	新規の箱物行政が多くて問題です。真に困難になっている全ての地域のウェルフェアを考えるべきです。	ご意見として承ります。